

【個別の指導計画 例1（中学校：通知表としても活用）】

個別の指導計画

作成日 令和 年 月 日

作成者

氏名		指導期間：令和 年 月～平成 年 月
学年・組	年 組	評価期日：令和 年 月 日
本人・保護者の願い（日常生活面 教科面 進路や将来の夢等）		
長期重点目標（1年） ① ②	長期重点目標とのつながりや、合理的配慮の内容を踏まえた指導・支援となることに留意します。	
具体的な指導・支援の方法 ①に関する指導・支援方法を記入 ②に関する指導・支援方法を記入		

教科・領域	長期目標	短期目標（前期・後期）		指導方法・手立て	評価 A:よくできた B:ほぼできた C:もう少し
		前期	後期		
国語					
社会					
数学					
理科					
音楽					
美術					
保健体育					
技術家庭					
外国語					
特別の教科 道徳					
総合的な 学習の時間					
特別活動					
自立活動					
生活単元 学習					
作業学習					

総合 所見	前 期	後 期

【個別の指導計画 例3（小学校2年生後半に外部機関の助言を受け3年生からスタート）】 [年 月 作成]

児童氏名	A	学年	3年	入級日	令和 年 月 日	担当者氏名
指導方針	指導時間					
<p>◎余分な刺激を取り除き、情報量を調節し、注意を喚起すること等により、集中しやすい状況をつくる。</p> <p>◎指示は一つずつ、簡潔に、理解できたかを確認してから活動に移るようにし、見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>◎作業量を軽減し、学習活動に取り組みやすくする。</p> <p>◎活動に対する行動目標を立て、できている状態をほめることにより、自尊感情を高めながら、落ち着いた行動をとれるようにする。</p> <p>◎学級の役に立つ仕事の遂行等を通じて、自尊感情を高められるようにする。</p>						
長期目標			通常の学級・家庭での配慮			
生活	<p>①使った物を所定の場所にしまうことができる。</p> <p>②リストに記入された物を忘れずに準備することができる。</p>		<p>・きれいに整頓された状態の、写真や絵カードを提示する。</p> <p>・持ち物リスト等の確認を支援する。</p>			
学習	<p>③話し手に視線を向けて、注意して聞くことができる。</p> <p>④2年生までの漢字が書け、3年生までの漢字が読むことができる。</p> <p>⑤苦手とする教科でも、学習活動に参加し、課題に取り組むことができる。</p>		<p>・名前を呼んで、注意が向いてから話す。</p> <p>・漢字の書き方は、言語化して示す。</p> <p>・活動の順序を示し、一つ一つの活動に対し、その都度評価する。</p> <p>・作業量を減らし、負担を軽減する。</p>			
行動・情緒	<p>⑥予定の時刻になったら、活動を切り替えることができる。</p> <p>⑦納得できなかったり、苛立ってきたりしたら、教師に伝えることができる。</p>		<p>・切り替えにくさが予想される活動は、事前に約束し、掲示し、予告する。</p> <p>・成功体験も含めて、振り返りの話し合いをする。</p> <p>・失敗体験に関しては、どうすれば良かったかを、具体的に教示する。</p>			
社会性・対人関係	<p>⑧友だちに対して、適切なコミュニケーションをとることができる。</p>		<p>・学級全体で、学活や道徳の時間を使い、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、そのスキルを行動目標とする。</p> <p>・休み時間毎に、友達との関わり方に関する行動目標を与え、その都度振り返りをする。</p>			
自己理解	<p>⑨自分の気持ちの変化に気づくことができる。</p>					
長期目標との関連	短期目標	手だて 無印：共通 (通)：通級指導教室 (在)：在籍学級			評価	
①	・声をかけられたら、使った物を所定の場所にしまうことができる。	・使った物を片づける時間を確保する。				
④	・2年生までの漢字を読むことができる。 ・2年生までの漢字を書くことができる。	・片づける場所に品物のマークを付ける。 ・似ている漢字から、正しい漢字を選ぶ活動に取り組む。 ・漢字の1画毎を言語化したり（縦、横、かぎ、はね等）、既習の漢字や文字を使ったりして、漢字の作りや書き方を教示する。 ・書き順序が間違っている場合、形が正しいことを評価する。 ・ドリル的な学習は、作業量を減らす。				
⑤	・学習に必要なことを、プリントやノートに書き込むことができる。	・ワークシートを利用し、書くための作業量を減らす。 ・板書を写すときは、書くべきところに印を付けたら、近くに板書のお手本を提示したり、ゆっくり読み上げたりする。 ・活動に参加しているときは、頻繁にほめる。				
⑦	・苛立ったときに、冷静になるための行為をとることができる。	・冷静になるための行為をとりやすくなるように、苛立ちやすい場面になる前に、あらかじめ、先生に言う、深呼吸をする、水を飲む、顔を洗う等、冷静になるための対処方法を伝えておく。 ・必要に応じ、冷静になるための行為を促す。				
⑧	・休み時間毎に、自己評価により、友だちとの関わり方のなかよし得点を付けることができる。	・休み時間が始まる前に、行動目標を確認し、なかよく遊べたときには、シールを貼って賞賛する。（トークンエコノミー法）				

【個別の指導計画 例 2・・・前期後期 2 回にわけて】

個別の指導計画（プロフィール）

氏名	記入日	記入者
学年 組		
障害の の状況 等		
保護者 本人の 願い		
合意形成 をされた 合理的配 慮の内容		
家庭・ 地域の 様子		
関係機 関等		
児 童 生 徒 の 様 子	認知・学習	
	運動・動作	
	コミュニケーション・社会性	
	生活習慣	

個別の指導計画＜前期＞

作成日 令和 年 月 日 作成者

氏 名		指導期間：令和 年 月～令和 年 月	
学年・組	年 組		
長期目標（一年間）			
教科・領域	各教科等の学習の記録		
	目標	指導方法・手立て	評価
国 語			
社 会			
算 数			
理 科			
生 活			
音 楽			
図画工作			
家 庭			
体 育			
外国語			
特別の教科 道 徳			
外国語活動			
総合的な 学習の時間			
特別活動			
自立活動			
日常生活の 指導			
生活単元学習			
総合所見			

()組 幼児氏名 〇〇 〇〇〇 さんの 個別の指導計画

生年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生 〇才 : 入学年月日〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

◇生育歴

◇支援が必要だと思われる状況

◇これまでの取組

◇他機関での支援

本年度の目標 (〇〇年度)

「～ができることが増える」「楽しむことができる」という目標では評価ができません。「何が、どのくらいできるようになればいいのか」具体的に、客観的な評価が可能な内容にします。

短期目標 (〇〇年度 ◇月～□月まで)

	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過 (記入日記載)	評価と課題 (記入日記載)
健康	【項目例】 ・遊び ・清潔 ・衣服の着脱 ・食事 ・排泄 ・睡眠 等				
人間関係	【項目例】 ・人間関係 (遊び・集団行動) ・主体的な活動 ・思いやり 等				
環境	【項目例】 ・動物への関心 ・数量や図形への関心 ・標識や文字への関心 等				

合意形成した合理的配慮の内容を踏まえた支援方法・内容となるように留意します。

支援を継続するのか、修正した方が良いのかも記入します。

() 年 () 組 生徒氏名 〇〇 〇〇〇 さんの 個別の指導計画					
生年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生 〇才 : 入学年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日					
◇生育歴					
◇支援が必要だと思われる状況					
◇これまでの取組					
◇他機関での支援					
本年度の目標（〇〇年度）					
短期目標（〇〇年度：◇月～□月まで）					
	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過（記入日記載）	評価と課題（記入日記載）
生活面	【項目例】 ・コミュニケーション ・人間関係 ・整理整頓 ・清掃 ・部活 ・余暇 ・家庭 等				
学習活動面	【項目例】 ・国語総合 ・地理A ・数学I ・保健 ・体育 等				
その他	【項目例】				

「～ができることが増える」「楽しむことができる」という目標では評価ができません。「何が、どのくらいできるようになればいいのか」具体的で、客観的な評価が可能な内容にします。

合意形成した合理的配慮の内容を踏まえた支援方法・内容となるように留意します。

支援を継続するのか、修正した方が良いのかも記入します。